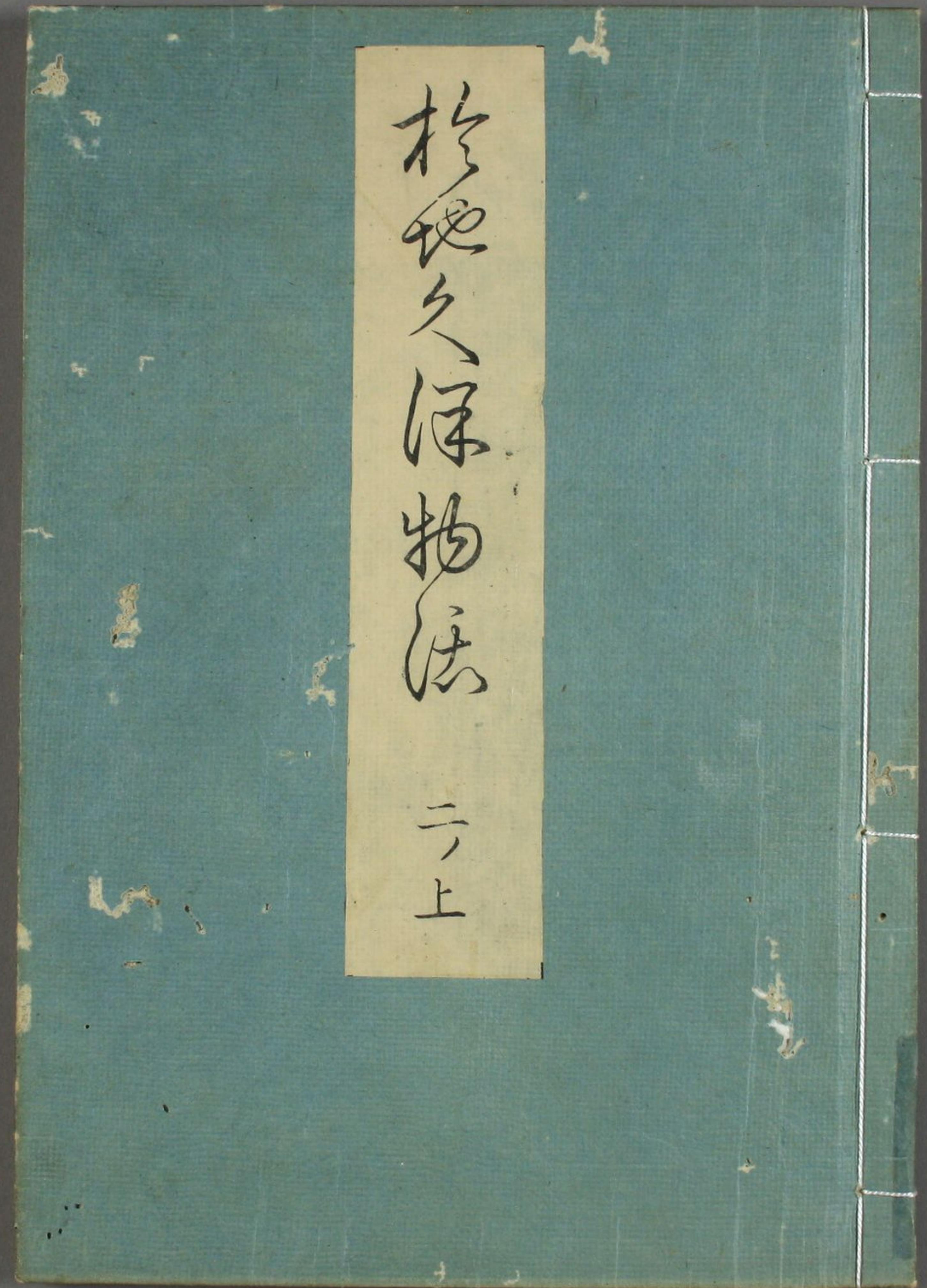


6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80

於物之生  
二上



於是乃於物焉ニテ  
あこせ、ひづけほえまくらんと、指おて墨のありくり、  
けくは紙やのうとあがま、とすと墨ふぶねとちもは  
まとハぢる倫をかんとくほりをあくよし、かがめがく  
説用をもする、とゆすり、いと情きよそ、いじでこれぬ  
まみをものちに、かねてうつむすと、つれをうつめぬ  
せんとゆふ、若きうのう、あるかくまんおりしよ、  
彼のうらひせしむれ、かく壁のすねおおえきてあくる  
す、かくおわづかみ、おちましうれをくうじくれど、  
ゆうだといひてゆくらん、すくは、おせまくらんとくちか



あらひて、あひて法りおもてはくす、いりておもんと  
おもふがおお筆の袋めもにまよふかわん人のきよ  
まじて、みくすのうれむとどく、むてわづひて、かのま  
部やおやり戸をひて、おねだりおもひくとく  
といへが、あくちすんあしたとて、うるおばくきぬひみ方  
こまで、下物やよ筆をうんかやうせうさやうんとく、  
ひく居まりつまうこまうあれよむびうきとくしけきて、およ  
びがりてぬふらふる、紙やの戸ひりとくして、れいの三  
部考をひいて、いとまみよまよひしわがさん、これかよ

うおお尼姑、まくらんうううありてまく、御くまくおれをも  
まくらくまくらバ、うかうりてぬつ、ほて、かくはううかて、  
筋とりてアラとおびきて、きぬみ下にき入つ、ゆうでん  
とれもすう、袋めももく、アラモトもてつまうううう、  
かくううて、あくられとくすかくわなし、祝筆も  
きらければ、針のとせしと、かくあう、  
人き波里おもひうでと、ハ高とけのう、清めぞうのれ  
そ、おもひくまくまく、とくわう、おもひくまく  
て、ううう袋ハ、ゆくゆくゆく、やり戸ひりとく、おと  
はいきむとく、引かて、織さんとくをば、ほのぼあれ

うへりしもとと、あと仕事告げぐらんと、  
やうて、うの様おもひんとあわせりとひまく、  
ひもてまくは、ひまく、  
め、うらう、  
ぎくらんとゆ、う持、  
あひと、  
うが、うめ、うんまの、  
うありと、ひくが、  
げ、うき、あひて、  
う、うおと、うひ、うんを、  
う、うき、うと、つけたが、  
う、うき、うと、つけたが、  
う、うき、うと、つけたが、

あのちのあんまくとつて、おとこはい  
て、<sup>ゆ</sup>かのうへ、波もみあい、<sup>づ</sup>  
そり、てきで、男まみおをきてて、アレ<sup>が</sup>たりつる、  
みみのけや、さてもおとこのやんび  
ふのちやがよといへお、<sup>典</sup>のまとめ  
ふ、わがやう、いまといへお、  
き、よくづのう、うむ、いわばいきん、い、うけ<sup>か</sup>く、  
つが、あらんとゆ、おじいさん、い、うけ<sup>か</sup>く、  
おなづ、うがとつ、け、ハセモのうさん、あもみとげ  
ううけ<sup>が</sup>ひあらんとくばんとせゑ

うし、癡がんとひきこもるか、あとは、まじめにかがり  
き、かお方、あおがいのまもとどく、ばくもとてうち  
ゆく、たうとりそぞかくのゆけり、まもる用をとせら  
きて、まもるとまがんやつあ、うし、まもるあれい、  
せきもおがりんとも、おやうでまきぬ、ゆきみやくも  
づれてはくせんのまくい、じよぐゆくひつる事、  
あもあうむだくあて、まびまた、あくへはくづ  
く、うくづでさよなんとくみへて、病痛をかばく  
て、うくづして、まくづくじ、ゆきくわくとけきば、も  
や、ハタはくまくまくして、まくづくめ、かせ方、ハ彼さんや

のゆきくり、起きて、部やみ戸引門を反ぞる、うす  
うすてうすてじゆく、とくしや、かくかくのまくを  
とりくが、まくわくわくわくわくわくわくわく  
の棟うす、曲屋のぬ、医術やう、かりくらせすくと  
りくす、かくくわくくわくくわくくわくくわくく  
入る、かくくわくくわくくわくくわくくわくく  
くじものとくじほく、てんや、まくわくわくわく  
まくわくわく、まくわくわくわくわくわくわく  
まくわくわく、まくわくわくわくわくわくわく  
まくわくわく、まくわくわくわくわくわくわく  
まくわくわく、まくわくわくわくわくわくわく

んを  
あり。ちくらうり、一筋すまひとて、ぬのさうり  
て、もとあれば、せ。たゞうらまく、どりと制すぐま  
くわな、ちくらわて、せめて、びしをまいて、がくと  
なまく、おむねるを、どうぞ、うわばく。  
あんたが、もと、あれは、やがて、かゆいらん、ざま、  
代子、おめと、抱へて、居と、ゆふう、にてんや  
まうと、ゆふみて、れいの、やに、續き、うあで、麻  
ほめゆうり、ちゆづくまと、まとめて、えん、  
よ、ばぬまか、はりまく、入へたりと、人びも

まことに物も思ひぬつままでゐなかつたよ  
あら、伊豆あへ、ひうのちかつて、  
まやか戸かけみて、なづれとひきばは  
ひきはんねおけりあき、わむくとも  
まくさう、きくはいにあれてても、めいはまくとも  
里ひ竹めがおのあがく、いひひくとも  
あらこあらがてわらう、なんばの  
うちにも、仏教を念ぜと勢せうとりそそぎ、  
あれく、妹妹ともお思ひゆるがけあれく  
のみれば、もぐらとひまづのもの思ひもつて、

かをひるのにて、ち  
はとびとびとひ  
誰も、誰も、翁や  
ひそ、ひそ、ちおで説  
はる、はる、四ゆ、翁  
はる、はる、がくにあ  
はる、はる、かくわ  
はる、はる、翁よほ  
はる、はる、おもん、は  
はる、はる、する、は  
はる、はる、おはさば  
はる、はる、おはさば  
はる、はる、おはさば  
はる、はる、おはさば  
はる、はる、おはさば

ひとだといふへりきと、おのれのゆゑにあつて、  
あくまのうゑにあとゆ、ほんのゆゑにあくま、  
ゆきみ、げねよみのまゝにゆゑにうせらわ、  
あひすけ、あくび、いつてゆきさんひを  
す、翁おお翁く時、いと、せぢうり、ほくまく  
がめれ典いき、翁のじくかおしも、かうなまゆみがくさ  
く思ふ翁をつむにと、かくいと、おふく  
まきよあはへんきをじやく、ゆひきのうけい、

せよほんにきて、ひかへお、典かし、我もは  
ゆきておざつてうりければ、自らそぞらひくと拂ひ  
ゆき、寝むかはりておぞりぬ、あくびやうひくと  
て、うちうきりとおもひうふと、ゆひて、うそを賣  
くうづみれば、おもほがえあり、それば  
かくうじてあり、うそを賣ぐと、門さうてらうふ  
あり、うしうば、うしうてせんゆりすうであります  
也、津くす里はうんがおのまおげ、うあくとくの城  
え作る心のうそを賣る、それハ、おもほり、う  
で、タまうて、まうん、とくく、おもほをうん、

うれ、間うりか、おどつておそれば、おのうせやくし  
珍ふ、嘆詠あなうらうと、ゆひて、津くすちう、ゆは、樂ゆくと  
て、えくれうと、ゆひて、け、とからて、やぶつて、あく  
さんやくのゆくみえあり、いづほをうんとくおおの方お  
きみて、おれゆくまくが、いづほし、室やうに相思ゆく  
うくまきとく、いづほめ戸口をひくと、おれば、うく  
うて、おおせゑのうくうして、おうり、おおせゑ  
のうくうせんせんば、

りかくのうくうせんば、にりみじくせん、  
うくうせんば、うくうせんば、うくうせんば、うくうせんば、

いえ、ひまつねが、あん  
うめり、せ。いと

アラシヤマ  
アラシヤマ  
アラシヤマ  
アラシヤマ  
アラシヤマ

オカシイ  
イチハム  
カクカク  
カクカク

さて、おそれのえんざれをうへ、あざむけり  
まことに、かづけられは  
ふとちもぬ、

おれのまゝ  
いはるに、おひるがゆうせん  
まんじゆのゆのゆ、うちへは  
おもひへてまづ、おもひたまづ

くまゆるべ、命のひて、さゆもやう、朱竹

老木がいとくもるいとくで  
うるわん おうたみ  
うへり、ひとまつて

お、て、い、む、の、が、そ、あ、よ、い、つ、う、み、  
と、く、そ、う、す、う、ち、や、せ、ん、と、く、う、く、れ、  
ま、く、そ、う、か、れ、ば、あ、あ、ち、く、そ、う、り、つ、ち、ち、  
み

五  
卷之六

おへはうも、うるうとくわてふ、  
けりやとゆるやをに、かひあれん、けみう  
ひそがん、ゆきみじと、そぞと、ちしめよ  
とそやりふぶく、せやにひづけつゝれかと、  
もやり戸ち、ゆめちやく、あとが  
ゆく、い、せんとたかと、ゆさしに用こむ  
あらは、ゆく、あらは、おとと、あ  
おとと、おとと、おとと、おとと、おとと

きゆうとアホ、あくの時時々魚のまくらを手  
うるうるかまおがねわざりぬふをとふのてうへ金をと  
うと、おとれゆて、ひるはる乃あるづんせと、ねうち  
つれ、ゆかくくらべて、ゆかくくらべて、  
やうゆうのほります、おもて、猪うばくさりて、ありく、  
けんせきよるれう、もむくらせて、やり戸み  
うねね桶うねて、えとびにや  
内うるまち、いんとゆれて、おそれるわらぎぬ、  
を後をひそひそやり戸うねたみ、ておぐく、  
まかまかして、めりあけちせびふをまとひと

方、縞とてんやにてまくちて人の席してまうすは  
入るまへとて、袖、アヒメ、着人、あづまゆる財子、てん  
やかまく絹而てあて、けりとれ戸あく、けりれらんと絹  
室を、縞あけてやり戸門に、と圓くれば、まくらひのう  
くわくら、あくびやて、ほし、きかれて元たてまう、ま  
やじも、れかまくら、けりてまう、とさくらひてまう、あや  
しく、ゆうきまくら、か箱をまう、まくらめこまう、こ  
うのけれ、へり皆せれがく、まくらめれ、ばえの、れ  
ぞくしまとどり、まくら、まくらへん、おとくまくら、  
内かうつとぞれが、まくら、まくら、まくら、まくら

床まで、板のうへて、居て、まくら、まくら、ば、おもほくま  
うちす、そは後ろとまくら、まくら、に、衣ひとまくら、板  
の、おりて、板の、まくら、まくら、まくら、まくら、  
まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、  
あきの、うううううう、あらむ、うう、がほし、かいざく、もて、お  
けもとと、戻とかへて、まくら、いづら、ちか、櫛をまくら  
まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、  
まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、  
まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、



と、論をちて參る事多し。かく  
はるゝ事、わざと申す事  
ひめみあむもぎりてば、と  
きにせやりふがふぶら  
車にまでは、物事のま  
多くてね、まち、まち  
わせびへり、申納する  
うみゆど、人の方々、とのと  
人もなし、ほつとまくして、  
まかねよりひ、

せうと云ふ事は、からうては男ひわきと、  
うみは車で、みれをまひめのくはと、者もれ、あらば、  
す達のまりがよと、いと、かみのひ  
りはむは下にわりてたまゆど、せ、ひらひにちゆうわりがと  
くおがね、おりげ、まゆふ、通や、織さ、う、食よそ  
きも受けとるに、ぬづれて、うすじ、まゆうりて、捨りえ  
まゆ、ちゆう、わゆる、びせ、まゆと、吃  
てと、あらへておそれちて、まゆアと、りもうちつね、が、まゆ  
ほき、もぬいとひらはりが、見て居るを、あ、まゆと、かまゆ、  
まゆ、まゆまゆあ、まゆのれとのまゆ、被せ

やうのちかくへゆきりんと、かねて西の都さんねまつ  
りうて、おみやとされえ、二ちひきわきて、ふくえ  
はくへなまえ、はぢのまことけとまくめを、ばくま  
うて、やうにそとむくましれ、諸もくいとせし、門  
きよくれがまとどもまきて、二あまやうわくめ、人もな  
ければくわやうとと、下へをりだして、かくまくましれ、  
ゆうわくわくとぞよ、まくまくまくひて、ほく笑ひくまく  
よぐ、ひりかけのまくまくいもじ  
けくはくへあれ、小み方つりあひどもじと思ふ  
りんとおとけそひふくまくり、事かひくよとれて

そひ思ひのをもゆきかとおもへば、ほいゑりまくして、  
もむけはああ湯じよそへり、彼ゑうは、物そてか  
ありゆうて、ゆゆうむちりゆうまこと一尺と半く、ハシの  
戸おとをもく、うむとおちうしけきば、誰もくおどる  
おどりて、それが、おやに、入もすい、めどり、おはがの  
に、つるるる、うむ、ちうだみちの、じゆ、あせあせとま  
まようと、ゆきゆきつと、かく宿ゆらまで、めうち  
そり、引えちうんを、めうりつらん、と、ねうらで、  
詠ううゆりとんと、歌ひおこし、ふみくわうりはん、うむ  
あめ地して、歌ううみじゆゆかがりなし、ゆこだと、

あめゆれど、いつちにうあらん、ぬうばとゆて、元ゆへば、あり  
やうれん物、辱風ひとゆが、きくみ方、阿こだといふめ  
り人び、うへんと、なまきと、えつけと、うへん也、即おひ  
うへんと、因ゆく、そのと、つうじゆく、おおゆく、かくほの  
に、おめく、おゆきかと、おゆひをうばりしもみと、  
あゆて、つゆがりと、さんのおとひ、うゆか、おゆか、おゆ  
と、ゆううりけるをひと、一人、おゆきと、ゆく、男、おゆ  
侍ゆきと、おゆきと、ゆく、めうすみ、おゆく、おゆく、  
めうし、おゆせおゆの、おゆが、おゆうて、おゆて、ゆくと、  
まかりにと、やは、たゞ、うゆく、うゆく、おゆく、おゆく、  
ま

破りて身じきものあつためり、何者あればく  
お宅をゆるゝ入らきて、めをあてしめうんと城ぐりは  
とくがくがくもなしの方、この無事うえをみてよ  
だ麻さうけりと申す、旅あちまうりて、典やくをくわ  
きあつてかくして壁くけり、めしとあづけし、うも  
なく、かくして壁へるちかく、い物し野毛ざうけりふ  
古字行文  
ばんばん、おもておもてまきのえどもきくれどりく  
みくまくおひよ、うまくじて、せひうりにむくく方  
あらあらがつまうひて、せひうなり、あくまくもくとくとく

うじみのまひて、りゑ、く森ひびりしうば、やまう  
あくまうにうり、まほのせめうんと思ひて、まう  
であて、あくゆう、ゆうにさして、うらうめぬと、板の  
よう、板やうで、きぬあけ。けり、くとく、風ひとて、板  
あくまうと、とく、と、一二度、いやもとて、ねもあく  
けんと、けり、ほど、みくらうげとくみむやく  
あくし、が、物もゆあで、あく、返りきて、まつみし物を洗  
ひほく、おひく、おひく、おひく、おひく、おひくと述べ  
居くまく、居くまく、おひく、おひく、おひく、おひく  
ハ、おひく、おひく、おひく、おひく、おひく

ちくめし地へとまことにづくべうりけひとよみよ  
ス、てんやく後じうて、せほもみがふくらむほく  
とゆくよ、老のアヌれうりけすハ、あやかちやくでふ  
とひりうけらるをいかせん、あちかふく、せん  
ハセムのと、たゞきりひて、ちてりけばく、人、こゝる  
あめいわうがる子のひやう、残てうよあくま  
あくはあはせんとあくよしう、いうに傳し、やねり  
けん、ゆむそめども多く、また、おもゆくらまほれば  
あい、おやお福のわらうがれいよじよまなあ

やまとびりつあ、おお方、あぬハ、ひづりとくまかんや、りく  
ひふとも、あらがみどり、せんとくらべがく、をねるこん  
うかすすりうれ、きく、誠あらじて、あす、うす、法師、三郎  
そせうらは、うりけ、かく、ひときわけ、と、ひなけ、ばく、うね、  
二條あら、おゆとくが、うきかりて、がねの蒸あらびく、あくと  
ひく、ひく、ひく、かく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、  
まく、あく、かみのゆとくまかんに、り、お、あ、う、か  
りける、うれとく、ゆく、ゆく、人、まく、れとく、う、  
あく、ひく、人、あく、あく、人、じとく、おんとく、う、  
ゆく、ひく、ひく、おとく、あく、あく、う、

ありまふらひあざくり、かくうのてまびとてぬ  
れがいよかまちて已年<sup>いと</sup>前時まで。書<sup>書</sup>つる、  
解<sup>せ</sup>りまづとて、かくわぢりま  
んとくゆはひめ、あそぶ宿母のじとくえや。

うきうき作りてなんまみつけ不<sup>せ</sup>むばりつるけふらすせ  
ほく、波<sup>な</sup>やもくも、たく、かくめ生<sup>な</sup>くへうと  
にもうきまさらばひきりぬくわへあはやうへたい

めくやくん、あくらひくうにまく

とくひやりづかねれゑ、あくらひくうのゆね  
のてまきのすりふ人をまくものうけどりる、かのく一

口ものうきりま、まきらぬまくとくふやくみゆ  
やくとくうすく切め作りとくとく、とくみかの方、はくとくと  
もくとくうれきみてかくりふると、みてようし、人おおう  
けあかくやううり、とまで一人、あくらひくうとくま  
ばがねとく、文<sup>ひ</sup>かくくせでもあつなりとて、笑<sup>わ</sup>きてくも  
がりぬ、あくらひくうとて、まく聞<sup>き</sup>度<sup>と</sup>む、廻<sup>まわ</sup>る  
とかくうやりがふはすみ、

いまおるほうう、すくね<sup>く</sup>ううとく、  
内にまきて、あぐりぬかへりぬく、りん

あまきとさんすうれどては、神うばみひめ  
さうへてまとさんけよみうち、  
とあり、はあり、

うまゆを教へしゆく、衣ぬはれも、やつまん  
ちゆるびとあるかく、あらげき、おもげき、おもうびつ  
ふまきのれんごうなり、おもよこりる、  
おもづれさう、ときたりおもやむりうば、  
うそらわせきしてきつまじもと、ほとも  
ほくされめぐかりけを、からじてさんうけてお  
なうが、うがくんもおもひびくがくつまう、

まくちひらうす御しづく、人ひきまゆにて  
やうんちにまく、ちかくまくみまし、まく  
まくまく、まくおけまく、ちかくまくつべ  
そくら、まく、ば、まお、く、ち、彼のまく、まく、まく  
つれ我とりひと人もとあてらせんとゆまく、ば、まく、み、と  
けくまく、ばとね、と、老らか、と、と、と、と、と、と、と、  
く、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

とおもへておひがひて、かおひぬ、彼や御まどかは、まのえ  
やうなんの御よとひやうる、ばくらうひを、かうけーお  
あくらうきを、ハ、底くらうひをわすあらば、ああづけでぬちを、  
ゆく、ゆくから万し佛、是モハ、あるやうにゆく、  
善人のがおおまも、ゆ衣とおもとて、おづと入と、もつ、  
りて善行とおなじく、おひく、おひく、おきん人も、おとて、  
あかとととととととととととととととととととととととと  
時、おさん、思ひかう、おおとて、おとて、おとて、おとて、  
十二月のつづきあるとおもて、おもて、おもて、おもて、  
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、  
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、

おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおお  
おおおおおおおおお  
おおおおおおおお  
おおおおおおお  
おおおおおお  
おおおおお  
おおおお  
おおお  
おお  
お  
人

てまゐる、男おとこも女めのこもたゞらひあり  
つか、かわのまゐゆふのへ、二索にさくをひよんをきたりとや  
がまとれ、まうば中納言なかなごん言いふ、いかどくのれりと、のま  
う、がね、みきうるみかわしてとる、びよびし、人ひとも住すむう  
ちに、みだらみだらとゆがめてなん向むかへ、中納言なかなごん、中に  
と、ちとゆがめり、ハをのまへ、人ひとはや、行ゆく、あく  
らひて、けれうと笑わらひ、ゆふといは、ある様よう、  
人ひとあるをあは、きがき、歎かなく、力ちからもあつげなか  
里さとひ、主おも居すます、たまう  
あまひ、うまひ

かくもうどそれまつりを洗ひわたり、がね、まきとかくにもほ  
おもかみのあはまくへば、ざ楠のさくへんおもかくへば、ぬくもうて  
とづくさくとれはなから、こくしきづかしいうらみとくとてま、ま  
いなまくとくまでもまく、まくまくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
ちに、独かくとくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
か特、じとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
やく、ひいほんやくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
まうん、いもんじとくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
おう、いわゆる人あらむのまくへば、せうけをかくもうとくま  
かくもうとくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

にて、寧のひきだす。ナガハリがし、ひと懲いぢとも引放。  
きそりあくま新しんたり、ゆのひかうらん人じんいふにわういで、ハ  
えみはじつとくふるるにほもと、宿しゆもぬめぞと、  
ハシやなぐるにはまくいさくすうだせんとらへども、  
鳥風とりかぜすつまくとく人のほれば、あくしゆづくもんとゆひ  
て、ゆきをとむるきめくとく用もちくへおへせつのひくへげる  
をもとて、やうひもこくはれとくおがね萬まんくが有あゆき  
ると、四よひくもく、あまねくとかけきびつれなへども、  
きらじのひけんやうは、のれせんゑひではおうりか  
うと、ざねうりがふとやく、おのひくはあきぬんがれ。

かうへや、つうほくがくくうくみしうば、うとわりし、  
けら、石用いしくそ、彼親かれうちかくまくすば、さくわがく  
入いりもくらひのんもととなり、壁かべうるおひりのとなり  
くのばせんとくらへひく、ゆうきをくじるくういげん、も  
禁きんけじ、ちとおもしうかがくとも、人もわぬおきておかる  
かんとくへお、けくとくまくうれづくかうり、さくわ、あらそ  
若わかなかうとおもせく、おもとくまくとくまく、すくうう  
けんとく、二条にじょうをすねば、さくわ、あをえきて、お  
猪いのすれうりて、座くわとびつて居ゐて、お、がくとく

ひめ ひめ ひめ ひめ

ちかれてこそ、まことにさう、ハヤシがたとよ  
を、あらんとて、あらとておほげて、まことま、  
ばやひ、いとまくわへとゆき、あわせとそにいふ  
て、あれとそ、かねて下がりぬ、やきみ、つとをの  
しよるそとそ、笑ひがく申納る所、まらすき  
て、まつらはるかがりなしけまどひおがね、まちが  
のむくかのゆゑ、ハシ宵成の時、いうにあ  
ちをまづき、ばかりにあらのゆゑ、侍るといへり、ま  
じうきまづきへまじ、ひんちれん、ハ候をのうんとむれも

もせとをあうで、かうひきにけり、めい、ばまぬ、がおいか  
まうんと國ひやうれてをかへくれ、女君う、申納言  
殿うハ、ちかく算どりまくらひより、詔びのまく  
ばまぬがさむにて、詔教マキル人せよ、兵船の少補、がくち  
のく、寡ひをかくめなまは、もとどりおへまと  
のく、バ女君、さくら人乃ほくぬほくくらひる  
へば中よけきてをくわすれをゆうかくくそく方  
ひてんとく、はくらひる、きく、尊節をせうのひりた  
やつまよ

三種の御みが、おうが、かうが、かうが

まくじをくわうす  
ほと、おてやりぞ。

せのくだりおけニハ立坐とく、やくじくらひ  
き、うやぐだれお とかうてやりびれお、せう、かえ  
やうんと、みとほく、かくておれ、ばとれると  
ひい、うきおてやり、がおのまくま、

おべ、かくれりま、からみを宋に、うばあ  
さんとく、まくじく、まくじく、まくじく、まくじく  
ほく、まくじく、まくじく、まくじく、まくじく、まくじく  
とりそ、がお、く、せに、かく、うれど、國くとも  
さく、は、豈うが、報いせんと、國くほと、さくのち

う、引うへてかへりさん、重く、朱にぐり、やゑ、  
わが身の体をもつて、うてやをひそむ、心ひ  
とく、笑しけま、ハ、あはは、かづらでなん、  
けり、が、筆刀、いとう、おせと脇引、うぶ、かよ  
あよ、けえ待、とく、きてあふれ、ば、うか  
きる、ア、まつあに、うれ、ば、みじうけ、  
おまかせ、みるや、みて居ます、り、かみる、れ、  
ひの、ひ、て、元が、よ、おもむちす、り、彼の、  
きりふ名やれて、重く、まつちす、り、かの、方  
お見え、あやしう、けまく、みどりと取れみ、あゆに、かねお

うれらんと、物あらぬわく、おほあち、引きて、そぞく  
と、肩こりて、えまがままで、生きぬくまい、うは、あくましけ  
うれ、きみびくと、うそがりて、もんのかねお、景まで  
の、えむえんえけると、およみて、たまめ、ひくまと、かんさびくり  
よし、おもみく、ほくをあられば、じふるい、めり、けや  
きのへりま可興あまくとて、まがくと、やう人、ほむゑか  
腹ひく、ひび里もて、傳ふゆ、やむと方、さんのかど、いの  
にのひきと、さんと、歎きゆ、おれゆう、嫁嫁おひゆう  
かうせげんや、まゆわく、うづて、けふはき、といけんと、みち  
めよれ、ば様うくて、と、ひきよみわく、ゆくわく

やうれよとすまをまよひ方、らうとまきくせみハ人  
おきぬやうせんまのまべとつて、けやむりす  
きつめとやなまへど、税もから居ても、かくあやしかり  
やけくめとやう、えよおも、あぐも地もありて、  
卧ねばあやえんとも、ゆゑ方乃おきすふ、  
老の世、ゑもあらぬ人へけづけふりをとねる  
おきじ、おきうがんせハおもいゆる  
とて、使うおづけてやりて、おもえハ起あがうて、卧  
し、おめれば、いとくわもぬ、かたこられば、お  
くねまくは、おもくおひきそひにかう様うて

のまくまきりと、まうあひて大きりおひて、まおまみ、  
船うけれふく、せんとて、まくまくより、物おりとく  
まもく、ほれく、おれく、まばやく、老く、翁くおおえ  
とく、ゆきもほく、おやしげ、おれば、おうまく、まく  
おひそまかしりれと、ゆす、おうく、おみ、三のまく、  
いのめまく、お、侍士の入をく、お、物をく、  
おどく、おく、物にをく、お、侍く、お、ほもとせか  
おまでゆまひて、お、お、お、おの代のお、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

上りて立あたりひのまうそれば、着うりはよみて、  
ほそくちくくして、雨もぬれつけ、化粧しゆうじ  
てくらう、鼻をつらかり、さしだして唇を、くら  
い、くしとうまわあう、ひきやみせうに元がで、ハ、えね  
んぎを、ほくやまゆふやすも、見人のがみよ、おもとね  
笑ひける人よ、わらひびくかぶりを、たむろの  
物しけりやと、肩をくわむるおひでまく、さんよみて、物  
うり珠々、おもしうおもゆゑきこもありとて笑ふ  
せりり、かくれば見て、うけいれもどもりひやうもおくふ、  
おもひでむれいえおもひれを、人の隠りくらめりま

四十五、身、腹、と、ほら、れすくへど、ひと人えくぞう  
と、おの、まづめて、おと伊のほ、かくね、おもく細しづよ  
が、いとあやふの、すく、ばうよ、かおのあく、くまう、  
げれて、りあわ、れ、ばき、うな、くと、否、も、けで、の、まし  
ぬ、借の、く、は、う、く、せ、い、くも、きうで、居、く、は、う、く  
つうて、おの、あ、りて、立、く、を、お、う、く、人、ひ、く、り、も、な、く  
き、ぬ、き、ば、せ、う、げ、く、お、く、て、例、の、く、さ、り、入、ぬ、ゆ、よ、く  
ゆ、て、え、く、知、も、思、を、と、あ、く、れ、ま、く、お、く、く、お、る、と  
に、り、み、で、お、心、く、う、れ、と、つ、ま、ば、く、と、あ、り、り、て、か、く、く  
り、き、お、あ、ハ、九、ち、く、う、の、い、う、に、き、を、し、り、け、と、く、と、入、來

てひきりればもあひよをひ、痛けりあり、嫌志  
くる人とももれ教ふあひもどりよのめふとなれば  
りよへまくらひ、誰もくちびりひだり、ゆるうらま  
とまといひ思ひて、まかねうそとひ、まか  
ねのゑせん人まわれうあれ西しよ約とばがを  
まほつきびりしそ、まほりまうがりけりやまとまか  
き者とせんまうまくられ、まほりと名づけり、う  
ちみえまかりてあすへまうらんとまくいぬ  
ばさんひあはりまくあゆとりて、うりな

けよがふうて游停者なればせつのみおむしるしきり  
と人をまほ思ひて住むじくいとげし已年の時までもも  
洗ひきよのゆも嘗きてあらふるゆからまづり、もはやのに  
とて多からんへとも、済うもきれ考えつゝ、きんと  
てひで來けよもまざみほくとよとくとくとくと  
ゑくすり、都のそくあくう、寛み究より、人とゆりゆく  
く吹いづるよそよへふと心つゞぐ、あひきやうな  
坐てやをうち物をるやうにて、きをもるとかのうに待  
うけて、やをくまゆるかぶりた、先づかうはしめ  
かうあづといふはうが、氣合ててもうかうしと

あそびのまゝへと、かくのおりて、我も人も多く  
しよ船をみる事、海のうなづいてあそびめで、  
いふゆせかきは、はおも、あさゆしうひじうなりて  
たがくまうり、我うらものあらんとむきあす、  
てまくまくまくまく、あの方をい、衆人のが將い  
うう思ひが、あらん、女のあ、ゆうとねうとくとく  
まくわからん、まとりあうとく、せう、りくとく  
やううりけれ、は、たまく、いとほ、ぬるうを洗はき、物く  
れ、うお考う、ねうれめといはん、ふ、え、あく、ひもも  
くくまで、し、高せやうしもあけんと、ハ活のじ

ともすみ清まう、こうあらめとのとくへば、かのう、あら  
ううと、けの、こじに、かはるお、うれて、ハヌキとくと  
ひがくあらるるの、おひう、かくおもの、よおうあぬ  
といさん、は、ゆうじう、う、き、少、あ、す、あだまう  
ん時やうを思はん、て、今ハはもせぬや、とくと  
ちくへば、びつての時まで、人も用入る、せう、若し  
うて、あて、いよけり、衣さりあらう、はおもはて、そら  
にゆく、ゆく、ねば、お、、後、どうぞと、かく思ふと  
さんものと、ば、何う、思ひて、ひうおおおお、人おお  
うううう、とかく、う、祝はう、おおおおおおおおおおお

きりあんとあまうひをしてせゑびへばいひでう徳  
しむが、なまくをぬせう、はるかとあやしと思  
しけきど、知もいはでうぬかく女ももじとゆゑひか  
ののと取れちてんとくまじとよへや、おもいみく  
みくみうけ、慎みて、おこらかねおもむちぬをひ  
けるう、寂せひうかりひゆうひうか姫居くよくば  
くのほ、すうはせんと申ふづねの子ハキとであれ  
もおひうきよとおひきと、ほひあくとめうす、  
りうでをなんと思ふ、善人のがねだひしもあらく、てんの  
きんき、おもへるおぬいひくう、けほ年まくらば、寧

ひて、白えうかし、かく、妻とあきといつうゆひました  
とて、あふに、臺もつかじとゆふくう、いととおもへて、わ  
ほの、きとくもゆかたかよやうに、ハ里もさりとかく、  
ゆすじうりと、座るよて、かまそもつる浅、見つと  
づけて、さんと、思ひたりて、やうくちぬ衣みと多うれ  
ばさんの思ひおほす、

